



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第31号(R4. 10. 21)

授業研修の風景

文化祭が終わり、これからは学力向上の時期です。学力向上の鍵は授業の質と生徒の主体的な学習の積み重ねにあります。今週、河東中では5本の公開授業がありました。

碓先生(国語)

「言葉の限界がその人の世界の限界だ」と言われます。比喩を理解し使いこなせることで、言葉の世界が深まります。言葉の世界を広げる碓先生の国語の授業。



7年2組で行われた国語の授業。三好達治の「土」という詩をもとに比喩の理解から始まりました。「イメージの共有」のために、車の色を比喩で表現していきました。班ごとに様々な色の表現が出されました。「カレーライスに入っているニンジン色」など子どもらしいユニークな表現でいっぱいでした。

18日(火)には、かとう学園小中三校授業研修会を行いました。小中合わせて9つの授業が研究授業として公開され、中学校の先生は小学校の授業を見学し、中学校は仲野先生と杉野先生の授業を小学校の先生に参観してもらいました。昨年か河東小・河東西小・河東中学校の三校で小中一貫した教育目標を定め、9年間かけてどうい子どもに育てるのかを共有しています。この目標は3年間変えない目標として決めました。「自立・協働・創造」を基盤とするものです。本年度はさらに、小中の教職員の交流を進めています。その一環として、今回、小中の先生がお互いに授業を見合い、授業中の子どもたちの様子を参観し合う機会を設けました。授業後には研究協議会を行い、小学校と小学校・小学校と中学校が今後どういうところを情報共有し協力していくべきかを協議しました。

仲野先生(数学)

義務教育最終段階での数学の在り方を実証する仲野先生の関数の授業。小学校での比例、中学校での一次関数・二次関数の知識を総動員して考える数学の授業。



9年4組で行われた数学の授業。一辺が2cmの正方形を縦横積み上げる時の高さや周りの長さ・面積等の変化をどの関数関係になるか判別していく問題。表・式・グラフを駆使して、個人でも班でも一生懸命に考え、説明していました。小中の関数の総決算であり、小中の教員が共同で検討するにふさわしい授業でした。



杉野先生(数学)

小学校での既習の知識である比例を使って、中学校の数学の考え方を利用して身近な問題を数学的に考える授業。かつて全国学力テストに出題された問題を杉野先生がアレンジ。

7年5組で行われた数学の授業。給食のかたづけの時間を求めるために、2分間の砂時計をペットボトルでつくるための砂の重さを求める問題。砂の重さと時間との関係を表やグラフを使って考えました。最後は数学的な表現を使って説明しました。小学校の先生にも考えやすい7年生の比例に関する授業でした。



岩佐先生(美術)

「和菓子」を題材に日本の伝統美を味わう授業。美術的な鑑賞の授業にとどまらない四季おりおりの季節感を表現し楽しむ深さのある授業でした。



9年3組で行われた美術の授業。和菓子を粘土でつくる導入としての鑑賞の授業でした。9つの和菓子の写真からどの季節のものかを判別するものです。授業を見て一番驚いたことは、色のイメージや動植物・形など様々な要素を引き合いにして季節を説明する9年生の表現力です。単発的な単語での説明でなくレトリックな9年生の表現に非常に感心しました。それを引き出す岩佐先生のテクニック。

金子先生(理科)

生態系の食物連鎖をタンポポ→ウサギ→タカのモデリングをもとに図式化して説明していく授業。ピラミッドを3つに分けて可視化して考えました。

9年1組で行われた理科の授業。ここでも9年生の表現力の豊かさが光る授業でした。生態系の生物の数量(タンポポ・ウサギ・タカの数)に一時的な増減があった時に、それぞれの生物の数がどうなるか。まず、増えるケースをプリント上で3分割されたピラミッドの面積で考え、次に減るケースをジャムボードを使って表しました。見える化することで理解も説明もスッキリさせる金子先生流の明解授業でした。



先日、階段ですれ違った9年生から、「校長先生、いつも学校だよりの裏面のコラム読んでいます。ためになります。」というとても嬉しい言葉をもらいました。中学生にとって少しでも励みになったり、勇気づける言葉になれば望外の喜びです。

人間の天敵は何？

～ 地球の生命体には宇宙は等しく天敵を与えた～

金子先生の理科の授業「生態系・食物連鎖」の授業を見て一つの話思い出しました。藤尾秀昭さんの語った話を紹介しましょう。

「地球に住む生命体に宇宙は等しく天敵を与えた。天敵とは、ネズミから見たネコ、カエルから見たヘビ、昆虫から見た鳥のようなものだ。天敵がいなければあらゆる生命は過剰に増え、まんえんしはびこる。それは、調和を愛する宇宙の心に反するという事だろう。

ただ、限りない生命体の中で人間だけ、天敵がない。なぜか。長い間の疑問だったが、ある時思いついた。人間の天敵は外にあるのではなく、心の中にあるのだと。

人間を襲い、むしばむ天敵。それは心の中に巣くう悪しき心である。事あるごとにわき起こってくる不平・不満・怠け心・グチ・人の不幸を喜ぶ心・自分さえよければ・・・それこそが人間を滅ぼす天敵である。

人間をそこなう天敵の反対側にあるもの、それが感謝である。心が感謝の思いに満ちあふれた時、あらゆる不平不満や悪しき心は一気に消え去る。感謝こそ人間という生命体を健やかに成長させる根幹である。そこに、地球の生命体に宇宙が等しく天敵を与えたにもかかわらず、人間にだけ天敵を外に与えなかった理由がある。」

